新生美術館基本計画素案の概要

政策・土木交通常任委員会資料2－2
平成 25 年（2013年）10 月 4 日
総合政策部「美の滋賀」発信推進室

計画策定の背景

○滋賀県には、美しい自然と穏やかな環境の中で、自然と共生す文化が生まれ、棚田、街並み、建築、伝統工芸など滋賀ならではのなど日常の美が育まれてきました。

○最近では、県民・作家の創作活動をはじめ、地域の団体による地域の魅力とアートを結び発信するイベントなどが各地で展開されています。

神と仏の美(仏教美術等)

○国宝・重要文化財の指定件数全国第４位

○地域の暮らしや、風土、信仰と深く結びつきながら大切に守られている

○優れた仏教美術等とそれを生み出してきた風土・歴史文化が十分知られていない

○傷みの激しい文化財の増加や地域での保存管理が困難なケースが増加

○文化財の保存・発信拠点であった琵琶湖文化館を平成20年度以降休館しており、その機能継承が不可欠

滋賀県立近代美術館

○昭和59年に開館以来、様々な展覧会や事業を開催。これまで約380万人が利用

○小倉遊亀、野口謙蔵、清水卯一、志村ふくみなど、近代日本画や郷土ゆかりの美術、現代美術を柱に、優れた作品を約1,500点収蔵

○展覧会観覧者数が長期的に見て減少傾向

○設備の老朽化、展示・収蔵・県民利用スペース等が不十分

○アクセスの向上が求められる（バス停からの距離、駐車場収容台数不足等）

アール・ブリュット

○県内では戦後まもなくから障害者福祉施設等において、自由な造形活動が先駆的に行われている

○近年ではそれらの作品がアール・ブリュットとして、芸術性の観点からも、国内外からの評価や関心が高まっている

○作品の発見や魅力の発信の継続的な取り組みが求められる

○作品の流出や散逸を防ぎ、県民の財産として保管する機能がない

「美の滋賀」づくりの推進

滋賀の様々な美を交差しながら伝えていく場所や、美を通して誰もが関わりつながれる新しい「座」を形成することをめざして、平成24年度から以下の3点を柱に「美の滋賀」づくりの取り組みを進めています。

①県民や関係者とともに「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活発化させる

②新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する

③滋賀の「美」の魅力を県民自らが伝える舞台をつくる

新生美術館の整備

滋賀県ならではの県民性や風土の結晶としての３つの美を柱に、県内各地にある滋賀の美の魅力のエッセンスを凝縮して伝える入り口として、そして、創作活動の現場や暮らしの場とつながり交流しながら受発信を行う「美の滋賀」のセンターとして、役割を果たすことを目的に、県立近代美術館の機能を拡張し、新生美術館として再整備します。

※「新生美術館」は近代美術館が新たな美術館として再スタートすることを示すために使用している一般的呼称です。正式な名称は、新たな美術館の使命や機能を踏まえて、今後決定します。

新生美術館

新生美術館の使命

1.「美の滋賀」の拠点となる

○「美の滋賀」の入り口として、過去から現在までの多様な美の魅力を発信し、多くの人を県内各地に誘います。

○県民が滋賀に対する愛着や誇りを育む機会を提供するとともに、貴重な滋賀の美の資源を確実に次世代に引き継ぎます。

○美を通じて多くの人がつながる機会を提供し、新たな交流と創造を生み出します。

2.人の育ちと共生社会の実現に貢献する

○県民や利用者、特に次代を担う子どもたちの知的好奇心と感性を育む機会を提供します。

○様々な表現や価値観との出会いから、お互いの多様性を認め合い尊重する、共生社会の実現に貢献します。

3.まちづくりや観光、産業などと連携して活力ある地域社会を実現する

○美の資源が持つ可能性を最大限に活かして、まちづくりや観光、産業、福祉など幅広い分野の波及効果を生み出し、創造的で活力ある地域社会を実現します。

新たな魅力

収蔵・展示の分野拡大

近代日本画
現代美術
郷土ゆかりの美術
＋【新たに収蔵・展示】
神と仏の美
アール・ブリュット、若手等

企画展示の充実

幅広い芸術表現に対応した新たな展示室を設け、国内外の様々な美の潮流を紹介

県民ギャラリー拡大

創作・交流・アメニティ機能の充実

レストラン・カフェ、ショップの充実、キッズ・ルーム、創作室、情報・交流室の新設

自然の美も楽しめる 公園整備による屋外での作品展示・イベント、琵琶湖・比叡山眺望

県域に展開 地域との連携による出張展示、イベント開催や研究、支援等の活動

新生美術館がめざす姿

創造との出会いの場

滋賀ならではの美をはじめ、世界の創作や美を巡る動きを幅広い視野で受け止め、魅力的なかたちで提供する、新たな創造との出会いの場になります。

美の魅力を提供する（展示・普及機能）

○過去から現在までの滋賀の美の魅力を紹介

○神と仏の美、近代・現代美術、郷土ゆかりの美術、アール・ブリュットのそれぞれの魅力を引き出す空間での収蔵品展示

○国内外の様々な美や、最先端の美、建築、工芸、デザイン、ファッション、メディアアート、サブカルチャーなど様々な美の潮流を取り上げる

○美術館のシンボルとなる恒久展示作品を設置

○多くの人が展示を楽しめる案内表示や鑑賞ツール

○五感で感じる展示やワークショップ、体験型イベント、創作への参加

○屋外空間を活用した作品展示やイベント開催

明日の人を育む（学習機能）

○学校や団体等の鑑賞プログラムなど、子どもたちの育ちの中に、創造性や感性を養う教育プログラムを提供

○キッズ・ルームや親子向け展示など、子どもや家族連れが気軽に美を体験し、楽しめる機会を提供

○対話型鑑賞や講座の実施など、創造的な鑑賞者を創出

多くの緑を結ぶにぎやかな広場

「美の滋賀」の広場として、美をきっかけに多くの人や地域がつながり、美術館の運営にも様々な人や団体が関わる、いつも人が集う場になります。

つなぐ・広げる（情報・交流・連携・アメニティ機能）

○滋賀の美に関する資料や情報の提供。特に神と仏の美とアール・ブリュットについては、情報発信や学び、交流の場となるなど拠点的機能を果たす

○県内の美術館・博物館や観光スポットとの連携による事業展開や周遊観光の提案

○美術館・博物館、文化施設、市町、社寺、大学など関係する施設や拠点との連携のネットワークづくり

○地域と連携しながらの出張展示やイベント、アート・プロジェクトの実施、インターネットでの活用など美術館の機能を県内各地で展開

○県産の食材や特産品を扱うレストラン・カフェやショップの設置

頼られる存在

滋賀で生まれ育まれてきた美の資産を未来に確実に引き継ぐげるよう、専門的な知識と幅広い経験に基づいた活動や情報を広く提供する、信頼される存在であり続けます。

集める・守る（作品収集・保管機能）

○近代美術館が収集してきた近代・現代美術などの作品を今後も収集・保管の柱とする

○琵琶湖文化館に収蔵されている仏教美術等の文化財を移転し、適切な環境で保管するとともに、今後の新たな寄託や寄贈の受入れに対応

○滋賀で新たに見出される美を支えるため、県内を中心に日本やアジアの優れたアール・ブリュット作品や、将来が期待される若手をはじめ県内作家の作品を収集・保管

探究する（調査・研究機能）

○滋賀の美に関する情報収集と研究に取り組み、その成果を還元

○神と仏の美の拠点として、独自の調査研究や県内外の博物館等との共同研究を実施

○アール・ブリュットの拠点として、日本やアジアの幅広い資料や情報の収集、作品情報のアーカイブ化を行うとともに、作品の芸術性を評価できる人材の育成等に貢献

新生美術館の機能

運　営

<基本的な方針>

①美術館ならではの高い満足感を提供するため、県民や利用者の立場に立った運営を行います。

②創造的で革新的な活動を展開するため、地域や社会とつながり双方向で連携をすすめます。

③持続的な美術館活動を展開するため、常に経営感覚を持ち効果的・効率的な運営を行います。

<ポイント>

○新たな運営組織として、学芸部門、企画・事業部門、広報・マーケティング部門、総務部門の設置を想定

○必要な専門性を備えた学芸員を確保

○県内の文化施設や地域の文化関係団体、社寺、作家などと積極的・有機的に関わりを持つ

○幅広い利用につながる戦略的な広報活動の展開

○ボランティア活動の充実

○レストラン・カフェ、ショップなど無料エリアの魅力を向上

○地元市（大津市・草津市）や地域団体、商業施設、公共交通機関、大学等近隣地域・施設との連携

施設整備

<基本的な方針>

①周囲の自然環境との調和の中で、多くの県民や利用者が憧れを感じることができる、デザイン性を備えた空間を実現します。

②自然の美も含めた、「美の滋賀」の拠点であることの象徴として、琵琶湖や比叡山の景観が望めるスペースを設置します。

③多くの人が集える広場のような存在となるよう、子どもや高齢者、障害のある人をはじめ、すべての人にとって居心地がよく、使いやすい施設を実現します。

④びわこ文化公園全体を美術館とみなし、公園の改修・機能向上と美術館施設の整備を一体的に実施します。

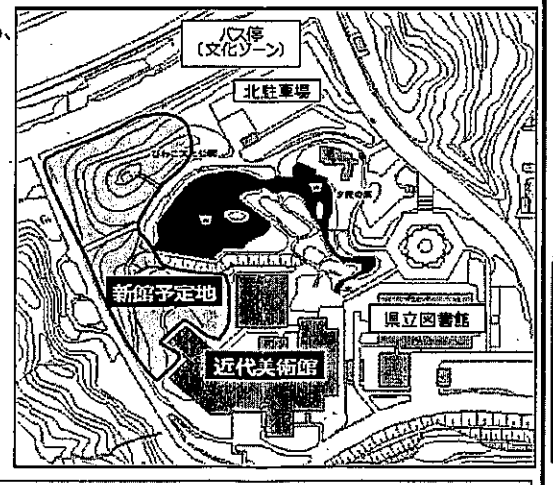
⑤新生美術館として必要な機能を今後長期的に果たすことができる機能と面積を確保するために、現在の施設（既存館）の改修と、新たな施設（新館）の増設を行います。

<ポイント>

○新たな空間や設備を備えた新館の増設→既存館の隣接地西北側に建設、両館に出入口、北側の道路から認知できる工夫

○公園空間との一体整備→屋外での作品展示、バリアフリー化、高揚感演出

○アクセス利便性改善→駐車場収容台数増加、バス路線・停留所改善、地域や公共交通機関との連携による瀬田駅等アクセスルートの表示改善・演出



○新生美術館として必要な諸室の想定　延床面積合計15,200㎡（既存館8,544㎡＋新館整備想定面積6,656㎡ ）

・展示部門	約3,８00㎡	収蔵品展示室、企画展示室、県民ギャラリー等拡大、恒久展示作品設置
・情報・交流・ｱﾒﾆﾃｨ部門	約1,500㎡	情報・交流室、創作室、レストラン・カフェ、ショップ、キッズ・ルーム等新設、琵琶湖・比叡山眺望
・収蔵部門	約3,400㎡	収蔵庫拡大（作品の材質等に応じて複数設置）、搬入口等
・調査・研究部門	約　500㎡	資料室、修復室等
・管理・共用部門	約6,000㎡	

目標・費用等

<来館者目標>

年間300,000人

（現在の近代美術館来館者（年平均）131,000人＋新生美術館として利用者増につながる取組による169,000人）

<想定施設整備費用>
56.4～35.9億円

<想定年間運営費用>
5.６億円

<想定スケジュール>

設計等着手
平成26年度

全面オープン
平成30～31年度